

学校行事+在宅取組型(小学校)

学校名等	大垣市立東小学校・東幼稚園
実施日時	令和2年10月3日(土)
会場	東小学校 体育館
参加人数	全校児童、園児
学習課題(分野)	サイエンス教室(自立心)
運営者の願い	新型コロナウイルス感染症予防対策をした上で、科学の不思議に触れ、関心を深め、家庭で親子の対話が増えるよう企画・実施しました。

学習の内容

サイエンス教室 トリックアート ～不思議な動く絵～
講師:美川圭介 先生(志道館学園 塾・学習部代表)

<トリックアート鑑賞>

人間の目の錯覚を利用して、不思議で楽しめるトリックアート作品を5つ紹介いただいた。最初はわからない様子の児童も次第に自分で気付くことができると「見えた!」「動いてみえる!」と積極的に参加して楽しんだ。

中でも代表の児童が手元の用紙をずらして動かすことで、スクリーン上に飛行機が飛ぶ様子や、女の子がくり返しウィンクする「スリットアニメーション」は、盛り上がった。

また最後に在宅取組につながる「立体錯視」と「首振りドラゴン」の不思議も体験した。



<シャボン玉演出>

子どもたちをより楽しませるために、電動でシャボン玉を作るおもちゃを複数購入し、換気のための大型扇風機を使って、講師退場時に体育館中にシャボン玉を飛び回らせる「シャボン玉シャワー」の計画を立てた。BGMには、アニメ「鬼滅の刃」の挿入歌を流した。

<在宅取組>

今回のトリックアートに関連した「立体錯視」と「首振りドラゴン」の模型を、自分でも作れて体験できると紹介いただき、お土産に工作キットを用意した。親は、子どもからサイエンス教室の話聞き、一緒にトリック作品を作り楽しむ在宅取組型家庭教育学級とした。

<取組の成果>

短い時間でしたが、子どもたちが「不思議～!自分でも見えた!へえーすごい!」など目をまるくして関心をもつことができた。後で学校のホームページに動画をアップしたので、参観日がなく学校の様子かわからない保護者にも子どもたちの姿を見ていただけた。保護者から「コロナ禍でも楽しみながらの学習風景がわかり安心しました。」という声があった。

家庭では親子で工作キットを簡単に作りながら話をするので、対話や関わりを増やすことができた。



実施回数を増やす

- ◎ 新型コロナウイルス感染症予防のため講師の先生に依頼して、当初保護者と全校児童の一斉参加体制から、2学年毎に分けて児童のみの3回開催に変更した。

実際のドラゴンの顔部分は凹んでいるが、立体にみえる。片目を閉じた状態で移動すると、どの角度でもドラゴンが追ってくるように首の角度が変わる。



試作と説明の付加

- ◎ 家庭でのコミュニケーションを増やす目的でお土産にした工作キットは、あらかじめ試作をして親子が簡単に完成できるように、説明の言葉を付け加えて配布した。

